

7月 2日(土)午後2時 OB・OG 感謝デー 高津高校に集まろう!

**総会・交流会は、7月2日
午後5時、高津高校 記念館
(同窓会館)で開催します。**

皆様の御支援に感謝申し上げます、7月2日(土)午後2時~5時、高津高校グラウンドに於いてOB・OG感謝デーを開催します。

- 皆さん、久しぶりに現役とのゲームを楽しんでみては如何ですか!
- 年配の方々には現役との混成チームでゲームを楽しんでもらう他、7mスロー大会など体に優しく・楽しい催しを企画しています!
- 軽い運動ができる服装をご持参ください。
- 子供さんは現役が面倒を見ますので、ご家族でご参加ください。
- 体育館が使用できないため、雨天の場合は5時にお集りください。

7月2日(土)午後5時、集合写真撮影(於 同窓会館前)

総会前にOB・OGと現役の集合写真を撮影します。総会後、現役との交流茶話会を同窓会館で開きます。(同窓会館に裏面で紹介の『部誌』が展示されています。)OB・OG会では、現役の活躍を携帯電話で読めるメールにてお知らせしています。(メーリングリストへのご登録は kozu.handball.ob.og@gmail.com 宛に御芳名と卒業期をメールください。)OB・OGのご活躍を伝える写真・近況をご連絡ください。会報への掲載、ホームページ <http://kozu.handball.iinaa.net/> ブログ <http://kozu-hand.blogspot.com> あるいは記念誌などでご紹介させていただきます。

懇親会は、7月2日、6時半、シェラトン都ホテル大阪 トップオブミヤコ (21F)で開催します。(地上21階からの眺望と、バラエティ豊かなバイキングでお楽しみください。)

近鉄 大阪上本町駅直結 TEL.06-6773-1111 (大阪市天王寺区上本町6-1-55)

2010年度 決算

2010/04/01~2011/03/31

繰越金収入	2009年度 繰越金	317,199
年会費収入	3000×77名	231,000
寄付金収入		159,700
総会費収入	7000×29名	203,000
総会費	2010年総会会場払	▲180,317
現役補助費	チーム登録料、ボール等	▲365,380
会報費	印刷・発送費等	▲70,098
通信費	はがき 切手他	▲85,004
事務消耗費	用紙等事務用品	▲6,334
雑費	振込手数料、インカレ広告	▲26,417
雑収入	銀行利息	31
差引残高	次年度繰越	177,380

懇親会費:7,000円
但し、卒業後4年間:
高60.61期は4,000円、
高62.63期は2,000円
で優待します。多数のご参加お待ちしております。(次期OB・OGの高校3年を無料招待します。)

**会費納入・寄付金
懇親会費 送金
のお願い!**

会報発行など当会を運営するためには皆様の会費収入が不可欠です。また、現役補助費(チーム登録料等)を充実させるには寄付金も必要です。何卒、現役を守り立てるために、絶大な御協力をお願い申し上げます。

趣旨に賛同頂き **2011年度 会費 3,000円**と
寄付金を納入、懇親会費を送付して頂く方へ

同封の郵便振替用紙をご使用頂くか
銀行振込をお願いします

2011年度
会費納入
郵便振替
用紙

三菱東京UFJ銀行 生野支店
普通預金NO.3999316口座名
「高津高校ハンドボール部OBOG会
会長 川上貴司」

【振込人名】には卒業年度と
コンシンカイヒ等を付記ください
※※※ 書き方例 ※※※
「高津太郎 コウ99キ
キフ or コンシンカイヒ」

【事務局】〒542-0074
大阪市中央区千日前1-4-8
千日前Msビル7階
光洋商事株式会社内
川上貴司
Tel.06-6213-1901
Fax.06-6213-4903
E-mail: kozu.handball.ob.og@gmail.com

大阪府立高津高等学校ハンドボール部OB・OG会役員

<p>【会長】 川上貴司 (高19期)</p> <p>【副会長】 筒井享子 (高24期) 塚正泰之 (高26期) 中野元博 (高26期)</p> <p>【財務幹事】 木村圭子 (高25期) 中川雅博 (高33期)</p> <p>【顧問】 橋本靖雄 (高3期) 福家清美 (高9期)</p> <p>【選任幹事】 中江義雄 (高10期) 柳 朝子 (高11期)</p>	<p>【選任幹事】 渡邊斎頭 (高13期) 許斐建樹 (高14期) 鈴木栄太郎 (高15期) 久岡敏博 (高18期) 稲葉良幸 (高20期) 早島知雄 (高20期) 片岡純夫 (高23期) 安田永子 (高24期) 玉井牧子 (高28期) 山本裕子 (高28期) 太田寛人 (高30期) 金銅康之 (高32期) 村口紀子 (高32期) 前川義信 (高34期) 平澤あず (高49期)</p>	<p>【特別会員】 (旧職員) 村田 弘 岡本 昭 今中啓且 太田正人 門田昌司</p> <p>【事務局】 川上貴司</p> <p>【会報編集】 中野元博 金銅康之 村口紀子</p>
--	--	---



第7号

発行日 2011年5月5日

大阪府立高津高等学校ハンドボール部 OB・OG会会報

高津ハンドボール

第7回 OB・OG会 総会 開催される



2010年7月3日 於 上六 高津ガーデン

本年(2011年)の感謝デーと総会は、7月2日(土)です

2010年 総会(第7回) スナップ写真集

総会の様子を御覧下さい!



東日本大震災で被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。OB・OGの皆様には被災された方々の支援を
実行されている方も多いことでしょう。皆で力を合わせ、一日も早く、復興を成し遂げましょう。



☆ 高校ハンドボール生活の果実 ☆

昨年7月の総会で、今年の「会報」の原稿寄稿の依頼を受け、安引き受けしたものの、ハンドボールと離れて
およそ50年、何をテーマにしたものかと、漠然と意識の片隅に置いていたのであるが、3月に入って「部誌」
なる冊子が送られてきた。

送り主は、高津ハンドボール部OB・OG会、広報担当副会長の中野元博氏（高26期）で、同窓会館に保存さ
れていた「初優勝記念号『部誌』高津高校ハンドボール部（昭和37年1月発行）」を復元し、簡易製本したもの
であると添え書きしてある。原本はガリ版刷りで青インクが劣化していて、読み辛いところは修正修復するなど
大変ご苦労された様子で、まことにその情熱には頭が下がる思いであるが、同時に「先輩、去年の約束、忘れて
いないでしょうね。早く書いてくださいよ。」と催促されているようでもある。

昭和37年1月といえば、当時私は高校2年生であるが、この「部誌」なるものに全く記憶がないのである。同
期の3人が、これに寄稿しており、そのうちの一人、鈴木君に確認してみたが、「そんな事、あったのかなあ」と
いう返事であることからして、よくぞこんなもん見つけたものだと感心するばかりである。

ともあれ、当時の校長や、顧問、先輩諸氏、現役生の寄稿文を読ませてもらったが、これはこれで貴重な資料
であることは間違いない。

高津ハンドボール部の歴史や戦績ばかりでなく、喜びや苦しみなど、それぞれの心の葛藤も綴られており、ま
ことに興味深い。

私は高校15期（昭和35年入学）であるが、部誌から推測するに、高津ハンドボール黄金期の最後であつたら
しい。

記録を見ると、高校11期に全盛期を迎えて、5年間くらいは、大阪で常にベスト3を維持していたようである。
その間、昭和34年の大阪府新人大会と府民体育大会で優勝、インターハイや国体予選でも常に優勝を争っていた
事が分かる。後に社会人や学生ハンドボール界で活躍されたスーパーヒーローが当時のメンバーであった事と、
それ以前の大先輩諸氏が、心血を注いで高津ハンドボール部の隆盛にご尽力された賜物であると推察する。

「部誌」は初優勝記念として発行されたものらしいが、何の初優勝記念かを説明している記述が見当たらない。
中に「高津クラブの近況」という記事があり、昭和36年11月、大阪総合選手権で大阪クラブに勝って優勝した
ことが報告されている。これを契機に「部誌」を編纂する事になったのであろう。

記憶をたどると、私が高校2年の時に、OBで結成されていた高津クラブが大阪府大会において、当時、体育大
学出身者で固めていた大阪クラブを破って優勝したことを思い出す。何せ半世紀前のことなので、克明にお伝え
できないのは残念であるが、我が高津クラブは学生と社会人の寄せ集めチームであって、常にベストメンバーで
臨めたわけではなく、「よく勝ったなあ」という印象である。メンバーに穴が空いた時、私を含めて現役高校生数名
が、駆り出されもしたが、この優勝で、翌年、山口県下松市で行われた全日本総合ハンドボール大会の出場権を
得たのである。（私も下松市の大会に、穴埋め要員として参加した事を覚えている。この辺の件りは、今年の会報
誌に高校13期の渡辺斉頭氏が寄稿されている。）

私たちは、現役時代よく負けた。特に3年生が近畿大会終了後に引退されてからの1、2年生チームはよく負け
た。相手が強くても弱くてもいつも接戦の好勝負をしていたように思う。「部誌」の鈴木君の寄稿によると、2年
生の秋11月までの戦績は12勝12敗1分と記録されている。弱小チームに負けると、チーム全体が打ちひしが
れた空気に包まれることもしばしばであったが、一方で、この頃は、先輩諸氏の計らいで、大学チームや社会人
チームとも対戦したので「むべなるかな」との思いもある。

昭和37年春、高校ハンドボール生活最後の挑戦となる近畿大会予選を兼ねた府民体育大会は、準決勝で宿敵寝
屋川高校に敗れたが、3位決定戦に勝利して京都での近畿大会に出場することができた。3位決定戦の相手がどこ
だったかは覚えていないが、勝利の瞬間、当時の寝屋川高校の中出監督が歩み寄って来られて、「よかったな」と
声を掛けて頂いたことは今でも忘れられない。

近畿大会はまたしても苦手の雨中戦となり、一回戦ボーイの汚名を返上できなかった。対戦相手は京都の洛星
高校で、延長に入り、勝機があったにもかかわらず一点差負けとなり、まことに悔しい思いをした。事後談だが、
この大会は雨に祟られ、順延続きで決勝まで勝ち上がった洛星は、定期考査にぶつかって棄権してしまったと聞
く。「さすが進学校やな、俺らやったらやっとな」と大笑いしたものである。ちなみに優勝は寝屋川高校であ
った。



『部誌』原本表紙
昭和37年1月発行



松村・鈴木・西本・三木・奥村
黒岡・今村・今中先生(顧問)・岩瀬
昭和37年6月(高校3年)近畿大会後に撮影

当時、高津のライバル校は、寝屋川と三国ヶ丘であり、今と違って公立高校が私立高校を圧倒していた。中で
も、我が高津ハンドボール部は、専任の監督、コーチを持たず、優秀な先輩諸氏が指導に当たっている特異なチ
ームで、これも我々の誇りの一つであった。

私が高校入学後ハンドボールを選んだのは、しばらく様子見した中で、ただ強いだけでなく、文武に優れた先
輩を輩出している事を知ったからである。もっとも、私自身は、徐々にハンドボールの虜となって、文を置き去
りにした事をいまだに悔やんでいるが、それでもクラブ生活から学んだことは計り知れない。

私が1年生の頃は、先輩のユニホームを持ち帰って洗濯したり、練習後は一つ一つのボールにワセリンを塗り、
用具の片付けをしたり、初めの頃は練習といえば体力作りの基礎練とボール拾いが日課であった。これに反発す
る仲間も居たが、私は比較的従順であったように思う。

夏の合宿について、部誌に先輩方も書かれているが、今思い出しても地獄のような一週間であった。水は飲む
な、腰を下ろすな、そして炎天下で部員の数より多い何倍もの先輩が、入れ替わり立ち代りノックやランニング
を強いるのである。終わると息も絶え絶え「ありがとうございました」。

苦しくも残酷な合宿であったが、このOBの情熱こそが高津ハンドボールの伝統を作り上げたのだと思うので
ある。その後、さらにOB・OG会が充実し、現役を守り立てようという機運の下に、今日の会に発展したもので
ある。

私の現役時代は、中江義雄氏（高10期）、浅野和郎氏（高12期）、林毅氏（高13期）という錚々たる先輩
が学業の合間を縫って指導していただいたものであり、生意気を承知で申し上げると、三人三様の個性的な指導
方法は、私にとって貴重な経験であり、今でも血肉の一部になっていると確信している。

物の本によると、「孝」という字は、「老」に「子」を合わせたものであり、老、即ち先輩・長者と、子、即ち
後進の若い者とが断絶することなく、連続して一つに結ぶところから「孝」という字が出来上がったと解
説されている。そして先輩・長者の一番代表的なものは、親であるから、親子の連続・統一を表すことに主とし
て用いられるようになったが、本来は「孝」とは親に孝行という意味だけでなく、先輩・後輩と長者・少者の連
続・統一がなければ進歩・発展がないということを表している、とある。

私たちは、高津ハンドボールクラブに所属し、先輩・後輩がますます絆を深める機会を大切にしたいもので
ある。

私がこの原稿を書いている時は、東日本大震災の報道が、ちょっと落ち着いた頃である。同期でOB・OG会に
も顔を出している、福島県いわき市在住の西本由治君の安否について、先輩の中江さんから、鈴木君を通して「西
本と電話が通じた。無事である」旨の第一報を頂き安堵した次第であるが、一方で、粘り強く連絡を取らなかつ
た自分を恥じ、この歳になって又一つ先輩に教えられたのである。

良き師、良き友を得ることは至福の極みであるが、その意味においても私が高校でハンドボールを選択した事
は大正解であったと今更ながら思うのである。

岩瀬 政治（高15期）